

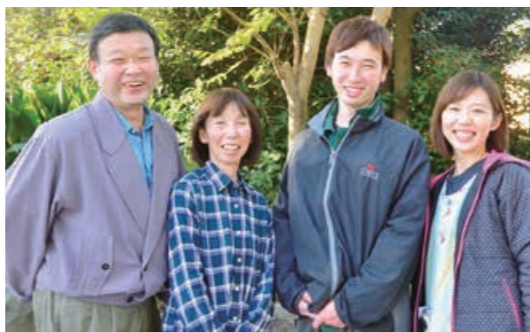


約120頭を飼養

私は仲間たちと「串良町酪農八人会」という除角グループを結成しています。今年の県ホルスタイン共進会でのグラントチャンピオン受賞は、このメンバーが協力し合い、団結し、胆力を持って勝ち取ったものと考えています。受賞した牛は、2年前の全日本ホルスタイン共進会では地区予選すら進めなかった牛でしたが、今回、雪辱を果たすことができました。

モットーは、牛を自然にかつ健康に飼うこと。そのためのポイントは牧草だと思っと思っています。私の牧場では、県内の一一般的な牧場と比較すると、2倍程の牧草を与え、配合飼料は半分に抑えています。しかも牧草はカットせず、長いままロールにして給餌します。これは牛を長生き

## 農林水産大臣賞受賞(経産牛ブランドチャンピオン) 「本物の牛」を追い求めて



釘田 武 さん一家  
(左から武さん、妻・千恵里さん、三男・智博さん・亜希さん夫妻)

させる秘訣。10歳以上まで生きられる長命連産の牛に育てたいと思っています。共進会への挑戦は、後継者にもいい刺激になると思います。現在、三男・智博が働いていますが、近いうちに長男・貴博と次男・光幸も帰ってきて、息子3人と一緒に酪農経営を行う予定です。そして、目指すのは、カナダで見た素晴らしい「本物の牛」。息子たちも皆、カナダの牧場実習を経験させたので、「本物の牛」を知っています。親子共通の目標と言えます。

そのためにも、これからは地域の酪農の発展と、乳用牛の改良を、微力ながら追求していきたいと思っています。



右は「リツクスター・ダミオン・カモミール」を囲む釘田武さん家族(右から三男・智博さん、妻・千恵里さん、三男妻・亜希さん)  
左は「KANO・5G・ブライトランド・リザ」を囲む鹿屋農業高校生(左から3年・益山竜聖さん、2年・春田峻平さん、3年・有村大輝さん)

# 県ホルスタイン共進会 ダブル受賞 ~鹿屋は乳用牛(酪農)も スゴい!~

畜産のまち・鹿屋市。9月に行われた全国和牛能力共進会(宮城県)では、県内最多となる7頭の和牛を出品し、「鹿児島県日本一」に大きく貢献しましたが、鹿屋市は乳用牛(酪農)も盛んなことでも知られています。県内で乳用牛の飼養頭数が最も多い地域は、肝属地区(鹿屋市・東串良町)で、県内シェア20%以上を誇ります。

10月28日、始良中央家畜市場(霧島市)で行われた「2017年度鹿児島県ホルスタイン共進会」では、鹿屋市からは県内最多となる19頭が出品。その結果、経産牛ブランドチャンピオン(農林水産大臣賞)に串良町上小原の釘田武さんが、未經産牛ジュニアチャンピオン(九州農政局賞)には鹿屋農業高校が5年連続で選ばれました。また、団体賞は鹿児島県酪農協同組合大隅支所(鹿屋市・東串良町)が7連覇となる受賞。鹿屋の乳用牛にも注目です!

鹿市畜産課(2階) ☎0994-31-1118

※経産牛とはお産を経た牛のこと。

## 九州農政局長賞受賞(未經産牛ジュニアチャンピオン) 牛舎に毎日通った結果の5連覇



鹿屋農業高校  
有村 大輝 さん(3年生)

鹿屋農業高校の乳用牛は、畜産動物学科の酪農専攻班が育てています。メンバーは2年生と3年生合わせて20人。このほか、1年生もローテーションで世話に当たっています。

県共進会出場に当たり、最も力を入れたのは、立たせ方や歩行などの調教。立たせ方とは、足4本をきれいにそろえて立たせること。足幅を覚えさせるのが大変でした。牛は日によって気分が乗らなかつたり、お腹がすいたりして、全然言うことをきいてくれないこともしばしばで、練習に集中させるのも一苦労でした。

なついてくれないと、牛はなかなか言うことを聞いてくれません。そのため、調教以外の時でも、休日でも、なるべく牛舎に行つて、牛をなでるなどのコミュニケーションをとるようにしました。

これまで続けてきた連覇を自分らの世代で止めるわけにはいかない、プレッ



鹿屋農業高校畜産動物学科酪農専攻班の皆さん



ダブル受賞・団体優勝を祝う関係者